



画像診断別冊 KEY BOOK シリーズ  
 知っておきたい乳房の画像診断



編・著：角田博子  
 松林(名本)路花

発行：学研メディカル秀潤社

2021年3月刊行  
 B5判・424ページ  
 定価：9,020円（10%税込）

本書は、基礎としてのI章 正常のバリエーション・アーチファクトに続いて、本書のメインパートである各論II～IV章、さらにV～VII章には診断医にとって知っておくべき男性乳房、腋窩腫瘍、リンパ節に続き、最後に種々の治療関連の項目という構成になっている。筆者はすべて第一線で活躍されている専門医で、その内容はきわめて濃い。

I章の基礎では、マンモグラフィ(MG)、超音波(US)、MRIの3モダリティの様々なバリエーションとアーチファクト所見がきわめて明瞭な画像とともに解説され、日常診療にすぐに役立つ内容となっている。II章 良性病変では最初に総説が記載され、その後の症例提示では非常に珍しい症例も豊富な画像が掲載され、大変勉強になる。III章では、読者が最も知りたい良悪性境界病変・リスク病変に対する詳細な病理学的所見の解説がされ、その後提示される症例の理解につながっている。IV章 悪性病変では、

非浸潤性乳管癌の中で特殊な被包型乳頭癌の記載が、改めて勉強になった。

また、微小浸潤癌や非浸潤性小葉癌などわかりにくい概念が、総説と症例から詳しく解説されており、理解が深まる。浸潤性乳管癌の項目の最後にはサブタイプ別の解説があり、カンファランスに参加している診断医、外科医にとっても役立つ内容である。

本書の後半部分には、男性乳房、腋窩腫瘍、リンパ節に関する記載が画像だけでなく、それらの臨床的意義にまで及ぶポイントが網羅され、乳房の画像診断学として完結している。最後に治療関連の項目が30ページにわたって記載され、常に乳腺外科医、形成外科医とともに仕事をされてきた編者の先生方の熱意が感じられる。

編者のお一人である角田博子先生は学術活動において日本をリードされていることは周知である。さらに、先生が画像診断だけでなく、外来、超音波、針生検、カンファランスと、治療以外のすべての乳腺診療を行っておられる点も特筆される。また、このような日々の診療の課題解決に当たって、あくまで所見から考えていくという放射線科医としての先生のスタイルも本書で明確にされている。

以上のように、本書は乳腺診療に携わっているすべての診断医、乳腺外科医にとって座右の書となる名著である。また、現在研修中の医師、乳腺診療に興味をもって取り組んでおられる診療放射線技師、臨床検査技師にも本書を参考に勉強を進めていただくことを祈念する。

画像相談クリニック／聖マリアンナ医科大学

中島康雄

